

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第35回「正確な電車」

私は電車で大学に通っている。利用しているのは西武新宿線である。その西武新宿線で、先日タイヤが大幅に乱れた。原因はブレーキの故障という説明であったが、電車が高田馬場に50分間も立往生したのである。

【あまりにも正確な運行】

帰宅途中でダイヤの混乱に巻き込まれた私は、普段よりも30分位余分な時間を費やした。各電車とも相当に混み合い、まるで朝のラッシュアワーである。各駅には電車の到着を待つ人が大勢いた。このような風景は久しぶりである。

この路線に限らず、電車というものは普段は正確に運行されている。これは日本では常識のようになっているが、実は正確に運行されている国の方が少ないのではないかと思う。

10年以上前に、私はMIT(マサチューセッツ工科大学)の友人を尋ねた。見学も討論も済ませたので、そろそろボストンのホテルに帰ることにしよう。「僕はこれで帰ります。(地下鉄)の時刻表を見せてください。『えっ、何ですって』。『だから帰路の地下鉄の時刻が知りたいのですよ』。『時刻表はあるけれども、その時刻は当てにはなりませんよ。あれは大体1時間に何本あるのか、見当をつけるために見るものだから』。『...』

オランダ国鉄のポスターにいわく『オランダの列車は97%正確に運行されています』。その傍にやや小さな字で補足説明『ただし4分以内の遅れは除きます』。あれー。日本の通勤電車は、2分間隔で運行しているところもあるんですよ。でも正確さを誇りにするとは、オランダの鉄道も立派なものだ。

【経済的な価値】

例えば10時10分に電車が来ると分かれば、駅前の本屋さんでギリギリまで立読みをすることができる。しかし平均10分間隔で運行していると言われると、このような技は駆使できない。平均10分ならば、5分間の待ち時間を覚悟しなければならぬ。

1人がホームで5分間待っても大したことはないのだが、これが何万人分も累積すると馬鹿にならない。しかも話は鉄道の

運行に留まらない。日本という社会は万事が高い品質を誇っている。

なぜ日本人は夜遅くまで働くのかと質問されたことがある。説明の仕方はいろいろあるが、その一因は「夜遅くまで働くことが可能な環境がある」ことだと思う。米国の大学では夜になると治安が悪いという話もある。休日に出勤して頑張ろうとしたら、コピー機が故障していて何も出来なかったという知人もいる。通勤手段が深夜になるとなくなる場所もある。

あるアジアの国のメーカーが広告の文章の中で「当社の製品はJapanese Quality」と書いていた。そんな宣伝文句にも使えるほど日本製品は高品質である。これは単一の製品の品質というよりも、社会全体がお互いの高品質を前提にして組み立てられているように思う。これは日本の特質と言ってよい。

【ネットワークの運用にも通じる】

読者諸兄の中には、自分の使っているネットワークの品質に不満をお持ちの向きもあるかもしれないが、総じて言えば我が国のネットワークの品質は高い。私が見聞した範囲も限られているが、米国の一流大学でもトラブルが続くと「今日もダメだ」という感じであった。またインターネット系ではなく、例えば銀行のオンラインシステムでも、動かないとなると全然ダメだ。数時間も止まったら日本では新聞沙汰だぞ、と脅かしてみてもサッパリ効き目がない。コンピュータネットワークが社会の根幹を成すようになってきたので、私は今こそ日本の活躍の場が拡大すると思う。これは楽観的な観測かもしれない。経済学者の佐波隆光先生(京大教授)は、日本の進出の余地のあるサービス経済の分野はメンテナンス(保守)くらいだろうと、むしろ消去法で説明している(参考文献)。

日本の将来に関して悲観的な見方が流布している。その中には聞くべき意見もあるのだが、心配しているだけでは事態は改善されない。これからは弱点を補うよりも特徴を活かして、国際社会の中で役割を果たすべきだろう。日本は十分に役に立つ特質を持っていると思うのだが、どうだろうか。

参考文献：佐波隆光「文化としての技術」同時代ライブラリー72、岩波書店1991。





[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp